

自治会支援担当



上林

那須塩原市

## 地域おこし協力隊通信

No.4  
2019年1月号

自治会長のみなさま、明けましておめでとうございます。那須塩原市地域おこし協力隊自治会支援担当の上林(うえばやし)です。今年もどうぞよろしくお願いいたします。昨年1月に協力隊に着任した私は、今月から2年目の活動がスタート。さらにステップアップできる1年になるよう頑張ります！

さて、今回は特集「地域の居場所づくり」と題して、お年寄りの孤立化防止や介護予防、生きがいつくりなどを目的として行われている居場所づくり事業の事例を紹介したいと思います。全国的に言われていることですが、那須塩原市でも、超高齢社会の基準とされる高齢化率<sup>1</sup>21%を超えています(24.2%<sup>2</sup>)。2030年には、市内のおよそ3人に1人が65歳以上の高齢者、5人に1人が75歳以上の後期高齢者になるという予測<sup>3</sup>もあります。そうした中、お年寄りが安心して元気に暮らせる地域をつくろうと、居場所づくりの取り組みが各地で始まっています。

## 特集 地域の居場所づくり

## ねんきん酒場(東那須野地区)

毎月15日17:30から、東小屋にあるコミュニティー食堂「知音食堂」(旧東那須野郵便局)の一室で開催されている「ねんきん酒場」。地域の集まりの中で出た「孤立しがちな男性の居場所がほしい」という声を受けて、東那須野区自治会長の松本祥三さんが中心となって始めた取り組みです。年金受給者はドリンク1杯と食事1皿が出てちょうど2000円(非受給者は2500円)という低価格。その他に参加者がそれぞれお酒やおつまみを持ち寄っています。一昨年12月から、年金支給日を目安に毎月開かれていて、毎月10数名、多いときには20名を超える参加者が東那須野地区内外から集まるそうです。



◀参加者のみなさんで乾杯！

お酒が入り、みなさんのお喋りが進みます ▶



▲「ディレクター」の松本さん▲

12月15日(土)に開催された、1周年記念の回に伺いました。初めての人でもすんなり会話に混ぜてくれる温かい雰囲気。参加者同士の自己紹介から話が弾み、意外なところでお互いの共通点があったりするなど、楽しい会話は最後まで尽きませんでした。新たな関係づくりにもつながり、年金受給者の男性をはじめとして、幅広い人たちの地域の居場所として今後も広がっていく可能性を感じました。

ねんきん酒場の「ディレクター」を自称する松本さんは、「『来た人みんなが主催者』というのがコンセプトなんだ」と話します。運営者と参加者、参加者同士で壁を作らずに受け入れている姿勢が、1年以上続いている理由なのかもしれませんね。

<sup>1</sup> 高齢化率…総人口に占める65歳以上の人口の割合

<sup>2</sup> 那須塩原市の高齢化率は24.2%(平成27年国勢調査より)

<sup>3</sup> 国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口』(平成30年推計)

## 寺小いきいきCAFE(鍋掛地区)



◀ 本間さん(右)はじめ  
役員の皆さん

1月8日(火)、鍋掛地区にある旧寺子小学校で開かれた「寺小いきいき CAFE」にお邪魔してきました。

閉じこもりがちなお年寄りをはじめ、幅広い世代の人たちが集い話せる地域の居場所を作ろうと、この地域に住む本間みつ子さんが、市社会福祉協議会や地域包括支援センターの協力を受けながら昨年2月より始めたこの取り組み。昨年中は、この近くにある乗馬クラブ「那須トレーニングファーム」にて「馬カフェ」として開催していましたが、今年から旧寺子小の教室に場所を移してリニューアルオープンしました。

移転して初の開催だったこの日は、新年のお祝いも兼ねて、獅子舞やお囃子会の方々による巻狩踊りの披露のほか、みんなでお汁粉を食べながら交流を深めました。

自治会の役員、生きがいサロンの会長といった地域で役職を持つ方や、鍋掛地区の外からの参加者など様々な方が集まっています、元気で賑やかな雰囲気でした。

カフェは月2回(第2・4火曜日 10:00~12:00)の開催で、参加料は1回100円。体操や茶話会、フリーマーケットの開催など、企画内容は今後参加者のみなさんで話し合いながら作っていくとのこと。現在このカフェの運営にあたる役員は本間さんを含めて3名。補助金は利用せず、参加料と有志の持ち込みによってお茶代などを賄っているそうです。

市社会福祉協議会によると鍋掛地区では「寺小いきいき CAFE」を含め、こうした居場所づくりの取り組みが3か所で行われていて、2月には4か所目が立ち上がる予定とのこと。



▲私も急きょ獅子舞  
を踊ることに...

## 取材を終えて...



今回の取材を通じて、「運営にあたる役員・スタッフの方も楽しめていること」「主催者と参加者との境目があまりないこと」が取り組みを継続できる秘訣のように感じました。

取り上げた2つの事例以外にも、市内60か所で行われている「生きがいサロン」など、居場所づくりの取り組みは各地で行われています。

今後も『協力隊通信』では引き続き、こうした居場所づくりの事例を紹介していきたいと思います。地域の取り組みの情報などありましたら、ぜひ上林までご連絡ください!

## ウエバヤシ



## から一言



昨年12月末日付で、地域おこし協力隊・生涯学習担当の伊藤隊員が退任されました。2年4か月にわたり、市民大学の企画運営や、子どもたちの学習支援に関わる活動に携わってきました。今後は那須塩原市を離れてしまわれるということですが、新たな土地でのさらなる活躍を応援したいと思います。

さて、最近一段と寒い日が続いていますが、その分空気が澄んでいて、通勤途中に那須岳がとても美しく見えます。高校時代、通学路から地元の岩手山がよく見えていたのを思い出します。朝にきれいな山を見ると、気分が晴れやかになっていいですね。



編集・発行: 那須塩原市地域おこし協力隊 自治会支援担当 上林直人

〒325-8501 那須塩原市共墾社108番地2 (那須塩原市 企画部 市民協働推進課 協働のまちづくり室内)

☎: 0287-62-7151 E-mail: ns-taiin02@mbr.sphere.ne.jp <自治会の情報や取材の依頼などお待ちしています! >

フェイスブック: <https://www.facebook.com/nasushiobarachiikiokoshi/>